

指定管理者候補の選定結果について

下記のとおり、指定管理者の「候補」が選定されました。指定管理者の指定については、地方自治法第244条の2第6項の規定により議会の議決を経る必要があり、平成26年12月議会の議決を経た後に正式に指定することとなります。

1 指定概要

(1) 施設概要

名 称：北九州産業技術保存継承センター
(通称：北九州イノベーションギャラリー)
所 在 地：八幡東区東田二丁目2番11号
施設概要：敷地面積（約23,950㎡）、延床面積（約3,195㎡）
本 館（展示室、スタジオ、ライブラリー、多目的スペース等）
工房棟（金属加工室、溶接コーナー、3Dモデル設計室等）
設置目的：一世紀以上にわたる工業都市としての歴史の中で、北九州が蓄積してきた3つの資産、「人材」、「技術」、「産業遺産」を活用しながら、「人材活用・育成」、「産業技術の保存継承」、「イノベーションの機会創出」という3つの目的に向かって取り組みを実践する。

(2) 指定期間

平成27年4月1日～平成32年3月31日

(3) 指定管理者候補の概要

名 称：公益財団法人北九州活性化協議会
所在地：北九州市小倉北区古船場町1番35号
北九州市立商工貿易会館6階
主な業務内容：北九州市域の健全な発展と活性化に関する調査・研究及び計画の立案。児童又は青少年の健全な育成を目的とする事業等

2 指定の経緯

平成26年	7月22日	募集要項等の配布開始
平成26年	8月8日	募集説明会
平成26年	9月26日	申請書及び提案書の受付締め切り
平成26年10月	9日	指定管理者検討会の開催（ヒアリング）
平成26年11月		指定管理者候補を決定

(1) 応募資格

- ・法人、その他の団体であること。(個人による応募は不可)
- ・本社、本店又は主たる営業所、事務所等を、事故など緊急な対処を要する事態が発生した場合に迅速に対応できる場所に有すること。
- ・募集説明会に参加していること。(共同事業体で応募する際は、代表団体が募集説明会に参加していること。)
- ・地域の企業や大学と連携を図りながら、教育普及や調査研究などの事業を企画・運営するノウハウや体制を有すること。

(2) 応募状況

説明会参加：5 団体

応募件数：1 団体（公益財団法人北九州活性化協議会）

3 選定方法

指定管理者の選定にあたっては、学識経験者や専門家等による指定管理者検討会を開催し、応募者から提出された事業計画書等について検討しました。市は、検討会の検討結果を参考に指定管理者候補を決定しました。

4 検討会構成員

- ・ [学識経験者] 水垣 善夫（九州工業大学 工学研究院長）
- ・ [学識経験者] 末岡 淳男（九州職業能力開発大学校 校長）
- ・ [学識経験者] 森田 昌嗣（九州大学大学院芸術工学研究院 感性融合デザインセンター長）
- ・ [公認会計士] 井上 洋美（日本公認会計士協会 北部九州会）
- ・ [地域企業振興] 三澤 祥一（公益社団法人九州機械工業振興会 専務理事）

5 選定基準

選定基準（＝審査項目）及びポイント	
1	指定管理者としての適性
(1)	施設の管理運営（指定管理業務）に対する理念、基本方針
①	応募団体が、市の当該分野における基本的な政策や計画、あるいは施設の設置目的や性格等を十分に理解した上で、それらに適合した管理運営（指定管理業務）に対する理念や基本方針を持っているか。
(2)	安定的な人的基盤や財政基盤
①	長期間安定的な管理運営（指定管理業務）を行っていただくだけの人的基盤や財政基盤等を有しており、又は確保できる見込みがあるか。
(3)	実績や経験など
①	応募団体が同様、類似の業務の実績を有しており、成果を上げているか。
②	応募団体が施設の管理運営（指定管理業務）に関する専門的知識や資格、経験を十分に有しており、熱意や意欲を持っているか。
③	複数の団体が共同して一つの応募団体となっている場合、それぞれの責任分担等が明確になっているか。

2 管理運営計画の適確性

【有効性】

(1) 施設の設置目的の達成に向けた取組み

- ① 施設の管理運営（指定管理業務）に係る事業計画の内容が、施設の効用を最大限に発揮し、施設の設置目的に沿った成果が得られるものであるか。
- ② 施設の利用者の増加や利便性を高めるための実施可能な提案があるか。
- ③ 周辺施設と有機的な連携を図る効果的な提案があるか。
- ④ 施設の設置目的に応じた営業・広報活動に関する効果的な提案があるか。

(2) 利用者の満足度

- ① 利用者の満足が得られるよう十分に考えられているか。
- ② 利用者の意見を把握し、それらを反映させる仕組みを構築しているか。
- ③ 利用者からの苦情に対する対策が十分に考えられているか。
- ④ 利用者への情報提供が図られるよう十分に考えられているか。
- ⑤ その他サービスの質を維持・向上するための具体的な提案がなされているか。

【効率性】

(3) 指定管理料及び収入

- ① 指定管理業務に係る費用（指定管理料）が最小限に抑えられているか。
- ② 収入が最大限確保される提案であるか。

(4) 収支計画の妥当性及び実現可能性

- ① 収支計画が妥当かつ、実現可能な提案であるか。
- ② 経費の配分は適切であるか。
- ③ 積算根拠は明確であるか。
- ④ 再委託が適切な水準で行われているか。

【適正性】

(5) 管理運営体制など

- ① 施設の管理責任者、管理体制が明確に示されているか。
- ② 施設の管理運営（指定管理業務）にあたる人員の配置が合理的であるか。
- ③ 施設の管理運営（指定管理業務）にあたる人員が必要な資格、経験などを有しているか。
- ④ 職員の資質・能力向上を図るよう考えられているか。
- ⑤ 地域の住民や関係団体等との連携や協働による事業展開が図られるものであるか。
- ⑥ 地域の優秀な人材を活用するものであるか。

(6) 平等利用、安全対策、危機管理体制など

- ① 施設の利用者の個人情報を守るための対策が十分に考えられているか。
- ② 利用者が平等に利用できるよう配慮されているか。
- ③ 利用者の選定が公平で適切に行われるよう配慮されているか。
- ④ 日常の事故防止などの安全対策や事故発生時の対応などが十分に考えられているか。
- ⑤ 防犯、防災対策や非常災害時の危機管理体制などが十分考えられているか。

【評価レベル】

評価レベル	乗率	評価レベルの考え方
5	100%	特に優れている（市の要求水準を大幅に上回っている、高度な能力を有している）
4	80%	優れている（市の要求水準を上回っている、十分な能力を有している）
3	60%	普通（市の要求水準を満たしている、一応の能力を有している）
2	40%	多少不十分である（市の要求水準を下回っている、多少能力が乏しい）
1	20%	不十分である（市の要求水準を大幅に下回っている、能力が乏しい）
0	0%	劣っている（能力がほとんどなく、任せることに不安がある）

6 審査結果

(1) 得点

団体名：公益財団法人北九州活性化協議会

選定基準（＝審査項目） 及びポイント	配点	評価レベル						平均	審査結果	得点
		構成員								
		A	B	C	D	E				
1 指定管理者としての適性										
(1) 施設の管理運営に対する理念、基本方針	5	4	3	4	4	4	3.8	4	4	
(2) 安定的な人的基盤や財政基盤	5	3	4	3	4	4	3.6	4	4	
(3) 実績や経験など	5	3	4	4	5	5	4.2	4	4	
2 管理運営計画の適確性										
【有効性】										
(1) 施設の設置目的の達成に向けた取組み	30	3	4	4	4	4	3.8	4	24	
(2) 利用者の満足向上	10	4	4	3	4	4	3.8	4	8	
【効率性】										
(3) 指定管理料及び収入	15	3	3	4	3	3	3.2	3	9	
(4) 収支計画の妥当性及び実現可能性	10	3	3	4	3	5	3.6	4	8	
【適正性】										
(5) 管理運営体制など	10	3	4	3	4	5	3.8	4	8	
(6) 平等利用、安全対策、危機管理体制など	10	3	3	4	3	5	3.6	4	8	
計	100	63	72	75	74	84			77	
地元企業の優遇加算									3	
合計									80	

※「平均」欄は各構成員の平均得点を小数点第1位まで記入。小数点第2位以下は切捨て

(2) 検討会における主な意見

【指定管理者としての適性】

- ・第1期、第2期の運営実績から、理念、基本方針を十分理解した上で、さらなる努力が提案書に含まれている。
- ・提案団体は事業を円滑に推進するための人的基盤を有している。

【有効性】

- ・従来の企画展の観覧者満足度を維持しつつ、より多くの人に認知してもらえるような広報や、周辺施設との連携について工夫を期待したい。
- ・年表のギャラリーについては、技術と製品開発の関係性が理解できるようガイド方法を検討するなどソフト面における工夫の余地がある。
- ・「K I G Sアドバイザー」という業務についての外部評価の実施を提案しており、サービスの質の維持・向上を期待できる。

【効率性】

- ・経費部分は、職員でできることは職員で実施し、業務の再委託をなるべく減らす提案をしており、コスト削減の姿勢が評価できる。
- ・今までの実績を踏まえて、従来どおり市の要求水準を満たしているが、観覧料の減額や支出をカットするという発想だけでなく、収入の確保にしっかり取り組んでもらいたい。

【適正性】

- ・適切な人材の配置により、しっかりマネジメントできる体制を整えていることが評価できる。
- ・地元企業からの人材を活用し、組織を活性化している。

(3) 検討会における検討結果

- ・提案者は、これまでの運営実績から、理念、基本方針を十分理解した上で、さらなる努力を提案内容に盛り込んでおり、総合的に見て、次期指定管理者として適正である。

7 選定結果

市は、検討会の検討結果を参考に、公益財団法人北九州活性化協議会を指定管理者候補に選定しました。

(1) 選定された団体の主な提案内容

別紙「提案概要」のとおり

(2) 市における主な選定理由

- ・平成19年の開館以降、指定管理者として施設の管理運営を行った実績もあり、施設の目的や目指す方向性を理解し、市の方針に沿った運営方針を有している。
- ・第3期の業務仕様書に新たに追加した「本市に蓄積された産業技術を継承するための人材育成に取り組む」について、当施設が重点対象としている若手技術者や技術系大学生、工業高校生を対象に、北九州マイスター等と連携し

た「技能教育」拡充のための環境づくりなど、市の方針を踏まえた提案を盛り込んでいる。その他「教育普及」「調査研究」「企画展示」においても、新しい提案が豊富に盛り込まれており、当施設の機能の充実と強化が期待できる。

- ・市内企業の現役幹部職員を配置するなど、団体の特性を活かして地域の人材を活用した人員配置を提案しており、民間のノウハウを活かした事業展開が期待できる。
- ・総じて、公益財団法人北九州活性化協議会は、市の求める要求水準を満たしていることから、指定管理者として適正と判断する。

8 提案額

平成27年度	207,700千円
平成28年度	207,700千円
平成29年度	207,700千円
平成30年度	207,700千円
平成31年度	207,700千円

提案概要

(北九州産業技術保存継承センター 指定管理者)

団体名： 公益財団法人北九州活性化協議会

1 指定管理者としての適性について

(1) 施設の管理運営（指定管理業務）に対する理念、基本方針
北九州市が蓄積してきた3つの資産、「人材」「技術」「産業遺産」を活用し、次世代を担う人材の育成、産業技術の保存継承、イノベーションの機会創出を図り、産業の振興に寄与する取り組みを推進する。
(2) 安定的な人的基盤や財政基盤
当協議会は、公益財団として安定した財政基盤を有している。管理運営にあたっては、適格な人材を配置すると共に、北九州地域の企業、大学などのネットワークを活用し、管理の効率化と事業内容の充実を図る。
(3) 実績や経験など
当協議会は、当施設の基本構想の策定から関わると共に、第1期、第2期共に指定管理業務を担当し、当施設の事業運営に係る専門的能力や運営環境の構築を行ってきた。

2 管理運営計画の適確性

【有効性】に関する取り組み
(1) 施設の設置目的の達成に向けた取り組み
【教育普及】 <ul style="list-style-type: none">・北九州市を支える次世代のイノベーターを育成していくことを目的として、若手技術者や技術系大学生、工業高校生等を重点対象とした「ものづくり教育」を推進するとともに、早期工学教育推進強化の視点から、義務教育段階を対象にした「ものづくり教育」の環境づくりを進めていく。・“地域活性化のための人材育成の強化”を実現するために、地域の企業や大学、学識経験者、及び「北九州地域産業人材育成フォーラム」等の関連事業との連携を図りながら内容と質の充実を図る。・教育普及活動成果の地域への展開を図るとともに、これらの実施を通じて企業技術者や研究者、大学生、工業高校生等の交流の場を創出する。・高度熟練技能者(北九州マイスター)等と連携して、本市で培われた卓越した技能・技術を継承する取り組みを行うとともに、「技能教育」の拡充のための環境づくりを推進する。
【調査研究】 <ul style="list-style-type: none">・北九州市の産業技術の保存継承、今後の更なるイノベーションの実現、またそのための人材育成に資することを目的として、北九州ならではの産業技術やデザインに関する調査研究、国内外の様々なイノベーションに関する調査研究、年表ギャラリー展示更新に必要な調査研究に取り組む。また、研究成果の公開を行い、成果の活用促進を図る。
【企画展示】 <ul style="list-style-type: none">・長期的視野に立って、国内外のイノベーションを具体的に分かり易く伝え、地域住民が科学技術や技能について広く親しみ、理解を深め、楽しみながら観覧できる企画・展示を実施し、理数・科学技術への志向と産業の担い手としての人材育成につなげると共に、当施設の存在意義や存在価値を高める。
【映像、図書、資料等の収集及び公開】 <ul style="list-style-type: none">・イノベーション、産業技術、デザインに関する映像、図書を収集・制作し、広く公開するとともに、利用者の声を反映させたサービス提供に努め、学習や研究活動を情報面から支援する。
【利用促進】 <ul style="list-style-type: none">・各事業の充実に加え、貸室利用や団体利用及び共催事業等の誘致を行い、利用促進を図る。・案内表示、IT利用、社会的弱者への配慮等のインフラを整備し、利用者の利便性を高める。・関係機関及び類似施設等との連携により広報、企画及び事業協働による利用促進を図る。・戦略的な誘致計画とフォロー体制を背景にした積極的な集客活動による利用促進を図る。・時代に対応するSNSの活用研究を行うと共に、各種広報ツール、媒体等を活用し、有効なメディアミックスを持って広報を実施し、集客拡大を図る。
(2) 利用者の満足向上
<ul style="list-style-type: none">・利用者アンケートの回収率を上げ、感想や要望等を十分に収集・整理・分析し、問題点や課題を洗い出した上で必要に応じた対応を行い、施設・運営サービスや各事業をブラッシュアップしていく。・パブリシティの活用、ホームページや会員向けメールマガジン、協議会の機関紙等により、イベント

- その他情報の広報活動を充実する。
- ・クレーム等に対し真摯な態度で対応すると共に、情報の共有、 接客マニュアルの充実、スタッフへの各種研修等により、安定したサービスを提供する。
 - ・利用料金は条例に定める範囲内を前提として、これまでの利用者からの声を反映させ、且つ適切な管理・運営費用を確保できる料金設定を行い、利用者の満足度を向上させる。
 - ・適切な情報選択および情報発信による利用者への情報提供を行う。
 - ・アンケート結果のフォローの徹底、専門研修の実施等によるサービスの質を維持・向上を図る。

【効率性】に関する取組み

(1) 指定管理料および収入

- ・最少の経費で最大の効果を基本として、当施設に関わる事業の運営に欠かせない職場環境と必要な業務成果の維持を踏まえ、人材の効率的な配置、再委託先選定時の競争原理の活用等による事務経費の削減及び事業の効率的運営等を徹底し、収支バランスを維持する。
- ・これまで当施設を管理・運営してきた中で蓄積されたノウハウと様々な人脈、利用者データ、地元企業や関係機関との連携等、当協議会の強みを活かして施設利用者数の安定的確保と更なる拡大を図り、収入の最大限確保に努める。
- ・利用料金単価(観覧料)の適正化を図り、来館・入場者数の拡大を目指す。

(2) 収支計画の妥当性及び実現可能性

- ・収入の積算にあたっては過去7年間の実績や利用者の満足度、及び今後の増収対策を複合的に吟味し実現可能な金額を算定した。
- ・支出の積算にあたっては最少の経費で最大の効果を基本に人材の効率的な配置、競争原理の活用、事務経費の徹底的な削減による算定を行った。

【適正性】に関する取組み

(1) 管理運営体制など

- ・館長、総務室長を中心に、調査研究、企画・運営、集客、工房、経理等の専任を定め、必要により相互補完を行う。また、外部の専門的能力を積極的に活用し、管理の効率化、事業内容の充実を図る。
- ・要員は関係する業務経験や能力を保有していることを前提とし、定期的な階層別研修を通じて、個人及び組織の質の向上に努め、全員が統一した理解と意識を持ち、設置目的に沿った提案や改善を行なう。
- ・当協議会の組織的特性を生かし、地域の企業や関係団体等との連携や地域の優秀な人材の活用を行うと共に、関係組織等との連携、ネットワークの活用による運営体制を構築する。

(2) 平等利用、安全対策、危機管理体制など

- ・「個人情報保護法」「北九州市個人情報保護条例」を遵守のうえ、当協議会で定めた「個人情報保護規定」及び「個人情報の保護に関する基本方針(プライバシーポリシー)」に基づき、管理にあたっては、細心の注意を払い適切な取り扱いを行う。
- ・利用者の安全・安心確保は施設管理者として最優先するものであり、法令遵守はもとより即物的・実践的安全管理を行うとともに日々安全に関する啓蒙を行う。特に、工房の運営にあたっては、安全マニュアルに基づく指導、および災害事例をもとにした安全教育を行なう。
- ・公の施設として利用者の安全・安心の確保に向けた各種の対策を講じるとともに、火災や地震等の事故発生を想定した各種行動マニュアルで迅速かつ適切な対応を行う。

提案額(千円)

項目	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
管理運営費	211,900	211,900	211,966	212,116	212,116
利用料金収入	4,200	4,200	4,266	4,416	4,416
指定管理料	207,700	207,700	207,700	207,700	207,700

管理運営に関する目標(人)

項目	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
入館者	65,000	65,000	68,000	66,000	66,000
企画展観覧者	18,500	18,500	20,000	19,000	19,000
教育プログラム参加者	12,000	12,000	13,500	13,500	14,000

北九州産業技術保存継承センター（北九州イノベーションギャラリー）

指定管理者検討会 会議録

1 開催日時 平成26年10月9日（木） 13:30～15:30

2 場 所 北九州市役所 本庁舎15階 15C会議室

3 出席者 （検討会構成員） 水垣構成員、末岡構成員、森田構成員、
井上構成員、三澤構成員
（事務局） 産業経済局産業振興部長 高度人材育成課長、
技術継承担当係長、担当職員

4 会議内容

○検討会開催前に、応募団体から提出された提案書等を送付、検討会の位置づけ及び選定基準等を説明の上、指定管理者候補検討シートへ事前評価の記載を依頼。

○構成員の紹介と互選による座長の選出。

○当日の配布資料の確認・本日の流れについて、事務局より説明

○選定基準、採点上の留意事項について、事務局より説明

○提案内容から審査対象外の事項を事務局より説明

（提案書19ページ）その他の取組み（1）映像の制作欄「制作した映像はTEPIA等への寄贈」とあるが、制作映像は市に著作権が帰属し、指定管理者独自の判断での寄贈はできないため、審査対象外とする。

○応募団体より提案概要の説明後質疑応答

（構成員） 「管理運営の理念」における「イノベーション」という言葉の意味については、「技術革新」だけでなく、もっと広義な意味でとらえ事業を展開していく必要があるのではないか。全体としては市民の生活などを包含した、イノベーションの視点からの提案が必要だと思う。

（応募団体） 「産業技術」というとものづくりに限定されるが、市民の生活を支えるのも産業技術と認識している。住まいのイノベーション、マネジメントや教育も産業技術を支える底辺と考えるなど、産業技術の定義を幅広く捉えている。

（構成員） 今期の募集要項で追加された条件「蓄積された産業技術を継承するための人材育成の取組み」や、「マイスターとの連携を図り、高度な熟練技能を保存継承に必要な事業を企画・実施する」等については、今回の提案内容にどのように反映しているのか。

（応募団体） マイスターと協力し、全体をコーディネートして工業高校、高専、工学系の大学と連携して人材育成に取り組むことを考えている。すでに一部試験的に実施している。

- (構成員) ものづくり教育における、技能や技術という区別はどのようになっているのか。
- (応募団体) 技能は技術を支えるものだと思っている。ものづくり教育は発達段階で違う。手で作るものづくり体験は技能を学ぶ場であり、年表のギャラリーなどを通じて本市の歴史、技術革新の歴史、それを支えるものづくりを学ぶと捉えているが、特に技術と技能の明確な区別はつけていない。
- (構成員) 平成25年度の正味財産増減計算内訳書の中に評価損330万円が含まれるが、この内容は何か。また、今後同様な資産を持つつもりがあるのか。
- (応募団体) 当法人では、国債を運用しているが、満期保有資産を5年から20年に切り替え、一部を仕組み債に切り替えた。会計基準上、満期保有資産を切り替えた場合は時価評価を行う必要があるため、その結果、見かけ上300万の評価損となった。今後も状況に応じて、リスクの少ない形で運用していきたい。
- (構成員) 収支計画書の収入項目の内訳で企画展の来場者人数を12,000人と見積もっているが、観覧料の金額の見積り方などを説明してほしい。
- (応募団体) 企画展の観覧料は内容に応じて変えているため、詳細には記載していないが、観覧料は300円で算定している。また収支計画書における観覧者数は一定水準で算定しているが、年々リピーターを増やしていきたいと考え、目標人数を設定している。
- (構成員) 企画展とそれに伴う教育は満足度をあげる必要がある。今提案している企画展は従来の流れのままであり、インパクトが弱い。ワークショップ等でアクティブな提案はないのか。
- (応募団体) 企画展では、書いた物をただ見るだけではなく、体験したり、動画を見せる等の体験型を重視している。
今年の夏の企画展はサンダーバード展を実施したが、首都圏で作成している巡回企画で、北九州の技術に関わる展示がなかったため、企画展外に北九州先端技術展をFAISにお願いして実施した。来場者の満足度も高く、北九州市の他の関連施設との連携は非常にいい経験となった。
- (構成員) 人員配置についてのノウハウは自立していないと難しい。長く職に就いた人ばかりを配置すると、企画を含めた事業運営はマンネリ化、停滞が起こる可能性がある。企画の新規性・斬新性を確保する上で、人の配置をどのように考えているか。
- (応募団体) 実績を重視しすぎるとマンネリ化し、新規性を重視しすぎると運営が上手くいかない可能性があるため、バランスが大事だと思っている。平成26年度に13人いるスタッフのうち4人を変えたところ、組織が活性化されてきたと思っている。北九州市にある企業からの出向スタッフが新規事業を企画し、ベテラン職員が運営面で支えている。第3期も、その延長線上で行きたい。
- (構成員) 調査研究を重点化することをうたっているが、少ない人材ですべてを行うのは難しい。企業で技術開発、マネジメントをしていた人材には、様々なイノベーションの調査研究を任せ、高校生、中学生に教える素材選びなどは他の機関との連携で強化を図るなど検討する必要があるのではないかと。
- (応募団体) 調査研究は、構想を練ったうえで、その分野にどんな人がいるのか調査して適任

者にお願いすることになると思う。コンセプトを決め、今の学校や産業界で必要とするものは何かというのを調査して報告することや、調査全体をマネジメントすることを行いたいと思う。

(構成員) 教育の分野では、大学に入る前の理科教育をどのように行うかというのが課題になっている。K I G Sは技術に関して、モノやビジュアルを使って展示などをする唯一の施設だろうと思うので、小学校の先生がK I G Sを上手く活用して、技術・技能でもって社会貢献する感覚を持つような、子どもの意識付けを図ってほしい。

(応募団体) K I G Sとしては、北九州活性化協議会が主催する、産学官連携による「産業人材育成フォーラム」の「青少年育成プログラム」に取り組んでおり、今後も連携しながらやっていきたい。

○構成員は、提案概要のヒアリングと質疑応答を受けて各自評価レベルを記入し発表。評価レベルの集計表を見ながら、構成員全員で意見交換

○審査項目「指定管理者としての適性」について協議し、各構成員の評価レベルを再度確認したうえで、検討会としての評価レベルをそれぞれ「4」と決定

(構成員) 第1期、第2期の運営実績から、理念、基本方針を十分理解しており、さらなる努力が提案書に含まれている。

(構成員) 提案団体は事業を円滑に推進するための人的基盤を有している。

○審査項目「有効性」について協議し、各構成員の評価レベルを再度確認したうえで、検討会としての評価レベルをそれぞれ「4」と決定

(構成員) 第1期、第2期の実績より、プラス方向で提案書が書かれており、評価できる。これまでの実績として、企画展は観覧者の満足度は高いが、そもそも来場したいと思わない人が多いことが問題である。費用対効果を高めるため、広報面などの工夫により、さらなる集客が期待できる。

(構成員) もっと多くの人に認知してもらい取り組みが必要。またいのちのたび博物館など周辺施設との連携等の工夫を期待したい。

(構成員) 年表のギャラリーを見るだけでは「この技術があったので、この製品開発につながっている」という関連性が見えにくいところがある。ガイドがあればわかりやすいと思うので、見せ方についてももう少し工夫の余地がある。

(構成員) 「K I G Sアドバイザー」という業務についての外部評価の実施を提案しており、サービスの質の維持・向上を期待できる。

○審査項目「効率性」について協議し、各構成員の評価レベルを再度確認したうえで、検討会としての評価レベルを「3」「4」と決定

(構成員) 今までの実績を踏まえて、従来どおり市の要求水準を満たしているということではないか。

(構成員) 企画展の観覧料を300円にする提案をしているが、これでは増収の見込みがな

い。収入の確保にしっかり取り組むことを要望したい。

(構成員) 支出をカットするという発想だけではなく、収入をしっかり確保した上で、よい循環で運営してもらいたい。

(構成員) 経費については、管理部門は再委託を出さずに自分たちで行う提案があり、コスト削減にむけての姿勢がみられる。

(構成員) 収入については、アドバイザリーボードを定期的で開催してきちっとした評価をしてもらう必要がある。

○審査項目「適正性」について協議し、各構成員の評価レベルを再度確認したうえで、検討会としての評価レベルを「4」と決定

(構成員) 提案書にあるスタッフの人数が、提案内容に照らして全体的に少ないと感じるが、他の機関との連携があれば事業展開に問題はないだろう。

(構成員) キーになる人が核となり、外部の人をマネジメントする体制を整えていることから高評価とした。

(構成員) 地域の企業からの出向スタッフを活用して、組織を活性化している。

○合計得点を算出、確認の上、検討会としての検討結果（総合的な所見）について協議

(構成員) 評価レベル集計表のとおり、検討会としての得点は77点。協議の結果、北九州活性化協議会は、これまでの運営実績から、理念、基本方針を十分理解した上で、さらなる努力を提案内容に盛り込んでおり、総合的に見て、次期指定管理者として適正であるという結論に達したということによろしいか。

○意見交換を行なった後、検討会を終了した。

(構成員) 現在のところ内部の評価委員会のような、一年ごとに事業全体の実績と改善策について評価する仕組みがないようだ。また、評価委員にマスコミ関係の方に就任をお願いすると、今後の広報活動に繋がっていくのではないか。

(構成員) 既存のアドバイザリー会議の位置づけを、全体的な運営を評価する委員会に昇格させるなど、満足度向上のみではなく事業全体を評価し、PDCAサイクルにより、事業改善が継続的に行われるようにしてもらいたい。

(構成員) KIGSの大きなキーワードのひとつに「デザイン」が入っているが、これは「技術とデザインの融合」としての視点である。今回の提案でも従来どおりの産業デザインのテーマの域にとどまっているが、これは過去の視点である。現在では、デザイン志向で技術者の教育をするという動きがあり、ぜひ、北九州から、デザインと技術の融合の視点での企画を発信してもらいたい。KIGSの大きなテーマなのに、ずっと置きざりにされている。

(構成員) 現在は、従来のデザインとは違う、技術や生き方を含んだ新しいものから、次々に価値観が生まれ、その価値観から新しい技術が求められ、その技術が創られていくというように世の中が変革してきている。産業都市は今まで技術開発志向でやってきており、この、ものの発想や捉え方の変容に技術革新が触発されてきているという事実を、一般家庭の方や学生は理解していないので、イノベーション

ギャラリーでどういう見せ方をするかが非常に重要となってくる。

(構成員) イノベーションギャラリーは、技術とデザインの融合の視点が設立目的の一つであつたので、そういった事業展開は忘れないようにしていただきたい。

(構成員) それでは、これをもって、検討会を終了とする。